

今支館・分館では

『伝承教室』

御牧ヶ原分館

昔より稲わらは生活の一番近くでミノや藁布団として人々を守り、納豆や麴を発酵させ食事を潤し、稲作とともに発展してきました。

昭和の中頃までは農家の冬場仕事として、縄・俵・筵づくりをして来季の準備をし、正月が近づくと門松やしめ縄などを作り、豊作や子孫繁栄を祈ったものです。

御牧ヶ原区では、しめ縄づ



くりを通して今の子どもたちが普段手にしたことのない藁に触れ、しめ縄を作ることで日本の伝統文化に少しでも触れてもらいたく、毎年年末に公民館事業として、育成会の役員の皆様が前日より藁や松・竹など材料を準備してくれ、老人会の方々が講師となり伝承教室を開催しております。

今年度は12月10日(日)に小学生を含めた20余名にて開催されました。

藁をなうことも初めての子どもたちには、しめ縄づくりは大変難しく、独特な結び方は大人でもなかなかてこずり子どもたちは四苦八苦しており講師に手伝ってもらい、やっとの思いで作り上げていました。参加した子どもたちは自分の手で作り上げたしめ縄を大事に抱えて、喜んで帰っていきました。

新年を迎える行事としてしめ縄づくりを後世に伝えていくために、私は元気なうちは老人会として伝承教室に参加

して子どもたちに教えていきたいと思えます。

御牧ヶ原老人会 望月豊三



『カレー会』

富士見平分館

12月3日(日)富士見平区公民館でカレー会が開催されました。カレー会は今回で4回目。

PTAと育成会の主催で小学生が中心となってカレーを作り、日ごろお世話になっている地域の方々や、一人暮らしのお年寄りの皆さんにカレーを振舞い交流を深める催しでした。

私が取材に伺った時にはすでにカレー作りが始まってい

ましたが、毎年恒例の行事ということもあり何回も参加している子ども達も多く、ピラーや包丁の使い方も慣れていて、とても上手に野菜を切っていました。また、初めて参加した子どもや包丁の使い方に慣れていない子はPTAの方に手を添えてもらって野菜を切る光景は大変微笑ましく感じました。

カレーは鍋に2つ。甘口と辛口の2種類を作り、出来上がりまでの待ち時間ではデザートのパフェに入れるフルーツを切ったり、トッピングの準備をしたりと楽しそうに時間を過ごしていました。

1時間ほどでカレーも完成に近づき部屋の中は美味しそうな匂いに包まれ、子ども達



も鍋をのぞき込んだりして、とても待ち遠しそうです。

いよいよカレーも完成し、配膳の時には子ども達が来てくださった方々に辛さの好みを聞いてまわり、それぞれの方たちに提供をしていました。私もカレーをご馳走になりましたが、野菜とお肉がたっぷり入っていてとても美味しくいただきました。

参加された年配の方のお話では、毎年この会をとっても楽しみにしているとのこと。「子ども達との会話も楽しく元気をもらえます。」とお話してくださいます。今回の取材でこのような世代間交流は地域の人々を元気にしてくれる会だなと感じました。

編集委員 山中祐子

